



⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報学	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグデータ、IoT、AI「情報学」(2回目)</li> <li>・生成AI、ロボット「情報学」(3回目)</li> <li>・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「情報学」(2回目)</li> <li>・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「情報学」(2回目)</li> </ul>
	1-6 <ul style="list-style-type: none"> <li>・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)「情報学」(3回目)</li> <li>・AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど)「情報学」(2回目)</li> </ul>
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2 <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど「情報学」(2回目)</li> </ul>
	1-3 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「情報学」(3回目)</li> <li>・研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど「情報学」(2回目)</li> <li>・対話、コンテンツ生成、翻訳・要約・執筆支援、コーディング支援など生成AIの応用「情報学」(3回目)</li> </ul>
(3) 様々なデータ利用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ解析: 予測、グルーピング、最適化「情報学」(3回目)</li> <li>・今のAIで出来ることと出来ないこと「情報学」(3回目)</li> <li>・AIとビッグデータ「情報学」(2回目)</li> <li>・認識技術、ルールベース、自動化技術「情報学」(3回目)</li> <li>・マルチモーダル(言語、画像、音声 など)、生成AIの活用(プロンプトエンジニアリング)「情報学」(3回目)</li> </ul>
	1-5 <ul style="list-style-type: none"> <li>・データサイエンスのサイクル(探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「情報学」(2回目)</li> <li>・教育、芸術、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介「情報学」(3回目)</li> </ul>

(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「情報学」(3回目)</li> <li>・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)「情報学」(3回目)</li> <li>・AIサービスの責任論「情報学」(3回目)</li> </ul>
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・匿名加工情報、ユーザ認証とパスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取「情報学」(5回目)</li> <li>・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報学」(5回目)</li> <li>・サイバーセキュリティ「情報学」(5回目)</li> </ul>
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの種類(量的変数、質的変数)、データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「情報学」(10回目)</li> <li>・相関と因果(相関係数)「情報学」(12回目)</li> </ul>
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、箱ひげ図)「情報学」(11回目)</li> <li>・相手の的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方(スライド作成、プレゼンテーションなど)「情報学」(7回目)</li> </ul>
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの集計(和、平均)、データ解析ツール(スプレッドシート)「情報学」(13回目)</li> </ul>

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・データサイエンス・AIの必要性を説明できる。
- ・情報の持つ意味や情報に対する態度・倫理観を理解し、情報を適切に扱うことができる。
- ・目的に沿った学術文献やオープンデータを入手することができる。
- ・調査データを用いた統計解析を行うことができる。



大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤)  人 (非常勤)  人

② プログラムの授業を教えている教員数  人

③ プログラムの運営責任者  
 (責任者名)  (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)  
  
 (責任者名)  (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的  
  
 (1) 教育改革の成果に関すること  
 (2) 教育・研究に関する学内の諸情報の収集・分析に関すること  
 (3) 教育改善に関すること  
 (4) その他IR推進に関すること

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和6年度実績	9%	令和7年度予定	10%	令和8年度予定	20%
令和9年度予定	100%	令和10年度予定	100%	収容定員(名)	320

具体的な計画

本プログラムを構成する情報学は選択科目であるが、令和9年度を目処に必修科目とする計画である。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムを構成する情報学は選択科目であるが、履修学生の人数制限を設けないことで、受講を希望する学生は全員が受講できるような体制としている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

令和8年度までは選択科目とする計画であるため、新入生や在学生に対する新年度ガイダンスや学生向けメール、関連授業科目などで、今後の社会において必要となる「データサイエンス」を学ぶプログラムを設置していることについての呼びかけを行い、当該科目を積極的に履修することの動機づけを行う。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

授業で取り扱う資料やデータは学生が学内外からアクセスできるクラウドに保存し、いつでも復習が行える環境としている。本学は在学中の全学生にPCを無償貸与しており、また全館においてWi-Fiの利用が可能であり、時間や場所を選ばずにクラウドにアクセスできる環境を整えている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業内容に関する質問は、授業中にも受け付けている。授業時間外においては、科目のシラバスに明記しているオフィスアワーや、学内メールを使用して質問を受け付けている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

IR・データサイエンス教育推進委員会	
(責任者名) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">佐伯宣久</span>	(役職名) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教授</span>

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和6年度において、情報学の履修者は29名であり、28名が単位を取得した。1名は休学のため未修得となった。開講学年における情報学の科目の選択率は35.8%であった。令和8年度までは選択科目とする計画であり、科目の選択率を高めるために、新生や在学学生に対する新年度ガイダンスや学生向けメール、関連授業科目などで、今後の社会において必要となる「データサイエンス」を教授するプログラムを設置していることについての呼びかけを行い、当該科目を積極的に履修することの動機づけを行う。
学修成果	授業後アンケートの質問項目「本コースの参加前後を比較して、あなたの中で変わったこと」の記入内容として、「情報に対する考え方が変わった」「Excelなどの技術を知り、データや数値などを分かりやすく表示することができるようになった」「情報収集や分析の仕方、情報学や統計学の歴史など学ぶ前は全く知識がなかったが、授業を通して、知識を身に着ける事ができ、チーム力のことや、論文の書き方なども学ぶことが出来た」といった回答が得られ、データサイエンスやその知識の活用についての学修成果が得られたことが確認できた。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	授業後アンケートの質問項目「本コースで学んだ内容を、これからの自分の活動(勉強や仕事、研究など)に活用したいですか?」に対して、「活用したい」と回答した学生が100%であった。一方で、「本コースで学んだ内容を、これからの自分の活動(勉強や仕事、研究など)に活用できる自信がありますか?」に対しては「自信がある」と回答した学生は53.8%、「どちらともいえない」と回答した学生は46.2%であった。活用する自信について「どちらともいえない」と回答した学生の回答理由として「理解することが難しかったものがあったり、看護の現場でいかせそうなものがあるかはわからなかったから」「自分のキャリア、学業に活かせるか実用的なイメージがまだ沸いていないため」などがあった。改善に向けた取り組みとして、今後の学生生活とのつながりや、医療職とデータサイエンスのつながりをより具体的にイメージできるように授業内容や演習課題を設定する予定である。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業評価アンケートにおける満足度調査(4件法、1=全く当てはまらない、4=非常に当てはまる)の結果、「授業の要点がわかりやすい展開であった」は3.57、「私は、授業から知的刺激を受けた」は3.57、「教員の説明は具体的でわかりやすかった」は3.57、「教員は、学生の理解度を考慮しながら授業を進めていた」は3.71、「教員は、質問の機会・方法を設定し、質問に適切に回答した」は3.71と、授業に対して肯定的な評価が得られたことから、推奨度の高い講義であることが伺える。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	令和6年度は、2年次の選択科目として開講したため、2年次の履修者は34%(学生82名中28名)に留まった。令和7、8年度も選択科目として開講するが、履修率を向上させるためにガイダンス等で履修の推奨を行う予定である。令和9年度以降は必修科目とすることを検討しており、履修率100%となることを目指す。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <hr/> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <hr/> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>現時点では修了者の評価は行っていないが、プログラム修了者の卒業後の調査を実施し、その活躍状況を評価するものとする。</p> <hr/> <p>学生の主な就職先は医療機関の看護師であり、本プログラムの内容・手法等に関する意見を医療機関から直接的に得ることは難しい。プログラム修了者の卒業後の調査において履修生本人からの意見を収集するとともに、医療業界の動向を注視し、両視点から教育プログラムの改善に繋げる予定である。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>データサイエンスやAIの産業界での活用例だけでなく、学生にとってイメージしやすい医療現場での活用例を多く取り入れることや、他の看護系の講義で学んだ知識を活かせるような演習を用意することで、数理・データサイエンス・AIが看護や保健の実践に役立つことが実感できるようにし、学ぶ楽しさや意義が感じられるよう工夫をしている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>健康データを分析する演習において、使用する分析ツールや手法を毎年度見直し、技術の発展を反映した授業内容となるよう毎年改善している。</p>





カリキュラムツリー

太字は必修科目、細字は選択科目。

2022年度から適用

自由科目							研究方法	看護実践の探究
統合科目					看護大学ゼミナールⅢ		看護卒業研究 島嶼・国際保健看護	看護実践の探究 看護統合実習 看護専門職論Ⅱ
広域 基礎 生涯 発達	早期体験実習 看護学原論 看護専門職論Ⅰ	島嶼・国際保健看護実習 災害看護 生活援助・療養援助技術Ⅰ	地域保健看護Ⅰ 老年保健看護Ⅰ 成人保健看護Ⅰ 小児保健看護Ⅰ 母性保健看護Ⅰ 精神保健看護Ⅰ 保健看護包括実習 生活援助・療養援助技術Ⅱ ヘルスアセスメント	看護過程展開演習 生活援助・療養援助技術Ⅱ 生活援助実習 生活援助・療養援助技術Ⅲ	地域保健看護Ⅱ 緩和ケア論 クリティカルケア看護 クリティカルケア看護演習 クリティカルケア看護実習 地域保健看護Ⅲ 老年保健看護Ⅱ 成人保健看護Ⅱ 小児保健看護Ⅱ 母性保健看護Ⅱ 精神保健看護Ⅱ	老年保健看護演習 老年保健看護実習 成人保健看護演習 成人保健看護実習 小児保健看護演習 小児保健看護実習 母性保健看護演習 母性保健看護実習 精神保健看護演習 精神保健看護実習	地域保健看護演習 地域保健看護実習Ⅰ 地域保健看護実習Ⅱ 在宅保健看護演習 在宅保健看護実習	
専門 教養	疫学と保健医療情報 身体活動論 人体の構造と機能	生涯人間発達論 臨床心理 保健医療情報演習 病態生理 微生物と免疫 人体の構造と機能演習Ⅰ	人間関係論 疾病論Ⅰ	看護大学ゼミナールⅡ リハビリテーション論 ストレスマネジメントと健康教育 家族社会学演習 栄養と代謝 臨床薬理 疾病論Ⅱ	保健医療福祉制度 身体活動論演習 人体の構造と機能演習Ⅱ			医療と倫理
教養 科目	リテラシー 看護大学ゼミナールⅠ 英語Ⅰ	日本語表現法 英語Ⅱ	中国語Ⅰ スペイン語Ⅰ 英語Ⅲ	中国語Ⅱ スペイン語Ⅱ 英語Ⅳ				
	人文科学 心理学 文学 哲学 歴史学		教育学					
	社会科学 沖縄の生活と文化		社会学 経済学 情報学		法学			
	自然科学 数学 化学 生物学		環境学 地理学					
	前期 1年	後期	前期 2年	後期	前期 3年	後期	前期 4年	後期

(2) (表1) 授業科目一覧 (単位数・開講時期・年次別)

授 業 科 目		必修	選択	時間数	卒 業 単位数	1年次		2年次		3年次		4年次			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教 養 科 目	自然科学	生物学		2	30		○								
		化学		2	30		○								
		地理学		2	30	4単位 以上			○						
		環境学		2	30				○						
		数学		2	30			○							
	社会科学	沖縄の生活と文化	2		30	4単位 以上 注4		○							
		社会学		2	30				○			○			
		法学		2	30										
		経済学		2	30					○					
		情報学		2	30					○					
人文科学	哲学	2	2	30	4単位 以上		○								
	心理学			30			○								
	教育学			2		30			○						
	文学			2		30		○							
	歴史学			2		30		○							
リテラシー	日本語表現法	2		60	12単位 以上		○								
	英語Ⅰ	2		60			○								
	英語Ⅱ	2		60				○							
	英語Ⅲ		2	30					○						
	英語Ⅳ		2	30						○					
	中国語Ⅰ		2	30					○						
	中国語Ⅱ		2	30						○					
	スペイン語Ⅰ		2	30						○					
	スペイン語Ⅱ		2	30							○				
	看護大学ゼミナールⅠ	2		60			○	○							
	小 計 (単位数)		12	38			24単位	19	5	18	6	2	0	0	0
(時間数)				870	以上	330	150	270	90	30	0	0	0		
専 門 関 連 科 目	医療と倫理 疫学と保健医療情報 保健医療情報演習 保健医療福祉制度 家族社会学演習 身体活動論 身体活動論演習 ストレスマネジメントと健康教育 人体の構造と機能 人体の構造と機能演習Ⅰ 人体の構造と機能演習Ⅱ 栄養と代謝 臨床薬理 微生物と免疫 病態生理 リハビリテーション論 臨床心理 人間関係論 看護大学ゼミナールⅡ 疾病論Ⅰ 疾病論Ⅱ 生涯人間発達論	2		30	34単位								○		
		2		45			○								
		1		30				○							
		2		30							○				
		1		30							○				
		1	1	30								○			
		1		30							○				
		2		45				○							
		2		60					○						
		1		30								○			
		2		30									○		
		2		30										○	
		2		30											○
		2		30											○
		2		30											○
		2		30						○					
		小 計 (単位数)		34		1		34単位	5	11	3	10	4	0	0
(時間数)				690		105	210	60	195	90	0	0	30		

授 業 科 目			必修	選択	時間数	卒 業 単位数	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専 門 関 連 目 科	広 域 ・ 基 盤	看護学原論	2		30	72単位	○								
		看護専門職論Ⅰ	1		15		○								
		災害看護	1		15				○						
		ヘルスアセスメント	2		45					○					
		生活援助・療養援助技術Ⅰ	2		60					○					
		生活援助・療養援助技術Ⅱ	1		30						○				
		生活援助・療養援助技術Ⅲ	1		30							○			
		生活援助・療養援助実習	2		90							○	○		
		看護過程展開演習	1		30								○		
		クリティカルケア看護	1		15								○		
	クリティカルケア看護演習	1		30									○		
	クリティカルケア看護実習	1		45									○		
	緩和ケア論	1		15								○			
	早期体験実習	1		45				○							
	島嶼・国際保健看護実習	1		45					○						
	保健看護包括実習	3		135						○					
	看 護 科	精神保健看護Ⅰ	1		15						○				
		精神保健看護Ⅱ	2		30							○			
		精神保健看護演習	1		30								○		
		精神保健看護実習	2		90								○		
		地域保健看護Ⅰ	1		15						○				
		地域保健看護Ⅱ	2		30							○			
		地域保健看護Ⅲ	2		30							○			
		地域保健看護演習	1		30									○	
		地域保健看護実習Ⅰ	1		45									○	○
		地域保健看護実習Ⅱ	2		90									○	○
	目 科	在宅保健看護演習	1		30									○	○
在宅保健看護実習		2		90								○	○		
生 涯 発 達 看 護 科		母性保健看護Ⅰ	1		15					○					
		母性保健看護Ⅱ	2		30						○				
		母性保健看護演習	1		30							○			
		母性保健看護実習	2		90							○			
目 科		小児保健看護Ⅰ	1		15					○					
		小児保健看護Ⅱ	2		30						○				
		小児保健看護演習	1		30							○			
		小児保健看護実習	2		90							○			
	成人保健看護Ⅰ	1		15					○						
	成人保健看護Ⅱ	2		30						○					
目 科	成人保健看護演習	1		30							○				
	成人保健看護実習	2		90							○				
	老年保健看護Ⅰ	1		15					○						
	老年保健看護Ⅱ	2		30						○					
目 科	老年保健看護演習	1		30							○				
	老年保健看護実習	2		90							○				

授 業 科 目			必修	選択	時間数	卒 業 単位数	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
							前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
専 門 関 連 科 目	統 合 科 目	看護大学セミナーⅢ	1		30						○			
		島嶼・国際保健看護	2		30								○	
		看護専門職論Ⅱ	1		15									○
		看護統合実習	2		90	72単位								○
		看護卒業研究	2		60								○	○
小 計 (単位数)		72	0			4	4	12	6	15	17	10	4	
(時間数)				2085		90	120	300	180	240	675	345	135	
	自 由 科 目	研究方法		1	15							○		
		看護実践の探究		1	15								○	
小 計 (単位数)			2	30								1	1	
(時間数)												15	15	
総 合 計 (単位数)		118	41		130単位 以上	28	20	33	22	21	17	11	7	
(時間数)				3675		525	480	630	465	360	675	360	180	

注1) 本表は、本学の教育課程の編成に基づいて授業科目を示した一覧表である。各年度の時間割においては開講時期が変更される場合がある。

注2) 養護教諭2種免許資格を得ようとする者は、「法学」及び「身体活動論演習」の単位を取得せねばならない。

注3) 自然科学、社会科学、人文科学の選択科目の登録可能人数を別途定める。

注4) 社会科学は、必修科目の「沖縄の生活と文化」に加えて、選択科目の「社会学」「経済学」「情報学」の中から1科目以上を履修すること。

注5) リテラシーの外国語（選択科目）は以下の組み合わせから選択する。各組み合わせの登録可能人数は別途定める。

①英語Ⅲ＋英語Ⅳ

②中国語Ⅰ＋中国語Ⅱ

③スペイン語Ⅰ＋スペイン語Ⅱ









